

## 令和元年度 第2回新潟市歴史博物館運営協議会 会議録要旨

【日 時】 令和2年3月3日(火)  
14時30分～15時50分

【場 所】 新潟市歴史博物館セミナー室

【出席委員】 池田 哲夫 会長 (新潟大学人文学部名誉教授)  
本井 晴信 副会長 (元新潟県立文書館 副館長)  
太田 公仁 委員 (新潟市立潟東中学校長)  
久保 有朋 委員 (新潟大学大学院生)  
渋川 綾子 委員 (にいがた湊あねさま倶楽部)  
津野 治彦 委員 (新潟市立亀田小学校長)  
橋本 博文 委員 (新潟大学人文学部名誉教授)  
和氣 彰 委員 (新潟市小中学校PTA連合会 副会長)  
渡辺 浩幸 委員 (日本旅行業協会 関東支部 新潟県地区  
委員会 委員長)

【オブザーバー】 歴史文化課 欠席

【事務局】 小林 隆幸 新潟市歴史博物館 副館長  
野口 晋 新潟市歴史博物館 総務担当次長  
阿部 均 旧小澤家住宅 館長  
石田 孝子 新潟市歴史博物館 企画普及課長  
高橋 久美 旧小澤家住宅 主査

## 【 次 第 】

### 1.開 会

### 2.副館長挨拶 詳細別紙

### 3.議事

#### (1) 平成 31 年（令和元年）度の館運営報告状況

##### 1) 博物館

##### 2) 旧小澤家住宅

資料 1～4 に沿って、事務局から説明。

#### (2) 令和 2 年度事業計画書

##### 1) 博物館

##### 2) 旧小澤家住宅

資料 5～6 に沿って、事務局から説明。

《 質疑応答 》 詳細別紙

#### (3) その他

《 その他 》 詳細別紙

### 4.閉会

## 《副館長挨拶》

(小林 副館長)

本日はご多用のところ、当協議会に参加していただき感謝している。

運営協議会は館長の諮問機関であるが、伊東館長が体調不良のため、急きょ欠席になり申し訳なかったが、今年度の事業報告、来年度の事業計画等について忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

## 《質疑応答》

(本井 副会長)

企画展「地図と古写真でみるにいがたの文明開化」展について、展示じゃないと一般の人がなかなか見ることができない資料がありよかったですので、ぜひこういう企画展を続けてほしい。

図録「明治のにいがた」もよい図録だった。これを機会に明治初期の写真が館内外に情報としてどれくらい伝わっているのか、総合目録のような記録集を作っていたきたい。それを土台に調査したり、使用できたりと幅が広がっていくと思う。

---

(津野 委員)

p.5-6 博物館の来館者数内訳について、体験の広場の小学生の数をどう捉えているか。また、p.7 今年度の企画展「むかしの暮らし」展の観覧者数が昨年度の「むかしの暮らし」展に比べて増えた要因をお聞かせいただきたい。また、「むかしの暮らし」展は授業で来館した人数も増えているが、授業は実際のところ、内容で来館数が左右されるものではないと思うが、この件についてもどう分析しているかお聞きしたい。

(小林 副館長)

体験の広場のカウントは自動カウンターで把握しているため、総合学習の数に限らず、体験プログラムの実施数が多いとどうしても人の出入りが多くなり、自動的に入館者数が増えてしまう。

今年度の企画展「むかしの暮らし」展が増えた要因は、昨年度に比べ開催日数が12日間増えたため、観覧者数もそれに伴い増加した。また、開催時期の影響もあり、昨年度は秋季に企画展「玉と鏡－西安新潟友好交流特別」展が開催されたことにより、通常秋季に開催している企画展「むかしの暮らし」展は冬季に開催されたため、授業で来館した学校も例年に比べて少なかった。

(津野 委員)

写真等は学校で見せることもできるが、博物館の体験の広場の強みは、小学生が実物の資料(モノ)に触ることができることだと思う。この強みをアピールして、早めの情報を流していただければ、市内の小学校に企画展「むかしのくらし」展の情報を流すことは協力する。

(小林 副館長)

今後、体験の広場も触れる資料(モノ)をさらに充実させていきたい。当館の体験ボランティアの方で学校の教員をされていた方もいるため、そういう方を中心に学校の対応をしていきたい。

---

(久保 委員)

p.3 にいがた古町「いまむかしカルタをつくろう」について、絵も柔らかく、親しみやすいカルタが出来上がったと思う。出来上がったカルタの配布先、活用方法を教えてほしい。

(小林 副館長)

300部製作したが、配布先は小学校、幼稚園、保育園で約180部、残は関係者や希望者に配布した。

具体的な活用方法は未定だが、当館の体験プログラムで使うことを考えている。

(久保 委員)

旧小澤家住宅でカルタ大会や宿泊体験でカルタを使う等すれば相乗効果が狙えるのでは。

---

(橋本 委員)

p.19 博物館の「みなとびあこども歴史クラブ」について、「文化財保護を考えるきっかけづくり」と書いてあるが、具体的に何を実施したか。

(小林 副館長)

文化財保護を直接考えてもらう特別なプログラムは実施していないが、むかしの道具を触ってもらい、どういうものが大事なのかということを間接的に伝えた。

---

(橋本 委員)

新型コロナウイルス対応について、さいたまの平和ミュージアムは新型コロナウイルスの影響で急きょ休館となった。今後のみなとびあ（新潟市）の対応についてお聞かせいただきたい。

（小林 副館長）

新潟市の新型コロナウイルス対策は、対策本部は設置するが、施設は休館しないという方針になっているため、その方針に沿って当館も開館している。新型コロナウイルスの影響で休館とするのは簡単だが、いつこの事態が終息するのか目処が立っておらず、再度開館する際のタイミングが難しいため、このまま開館とする予定。

（池田 会長）

公共施設は安全が第一と考えるのが大事だと思う。先を読むのは難しいとは思いますが、情報発信を迅速に行い、混乱を招かないようにしていただきたい。

また、春以降も新型コロナウイルスがどうなっているのか不明のため難しい部分もあるということは理解している。

（小林 副館長）

新型コロナウイルスの影響で3月に開催予定だった館長講座は延期した。延期した館長講座は新年度に開催することになると思うが、開催の設定時期も難しい。また、現在小中学生は自宅待機ということになっているが、当館としては自宅待機なのだから彼らの来館の受入れをしないか、それとも行き場を失っている児童の受け皿になったほうがいいのか対応が悩ましい。

（池田 会長）

難しいとは思いますが、市の施設の開館休館の対応がバラバラではなく、砂丘館等とも連携し、足並みを揃えていただきたい。また、これに関する情報発信も遺漏のないようお願いしたい。

---

（久保 委員）

p.4「復活！白山詣で 江戸のにぎわい再現」を新型コロナウイルスの影響で中止した場合の代案をお聞かせいただきたい。

（小林 副館長）

「復活！白山詣で 江戸のにぎわい再現」は文化庁の補助事業であり、中止した場合、当然のことながら補助金は出ないため、今後、別な日を設けて開催した

ら当館が経費を負担することになる。今年度と同規模での開催は金銭面でも難しいため、このイベントを開催するとしたら実行委員会の有志で金銭を工面して実施してもらうか、もしくは、規模を縮小し、館の自主事業で実施することになる。

ちなみに、このイベントは今年度当館が実施した後、まちづくりの会社に引き継ぎ、イベントを継続して実施してってもらい、古町を盛り上げて行ってほしいという意図もあった。

---

(池田 会長)

会議資料には出前授業や館外で行う講演・講座の開催回数等の実績は記載されていないが、これらの概要について教えてほしい。

(小林 副館長)

例年2～3校に出向いて出前授業を行っているが、今年度は新潟小学校、白山小学校に出向き、出前授業を行った。バスの手配等金銭面で小学校が当館に来館することが難しくなっている現状があるため、もう少し学校側にもアピールし、出前授業を増やしていきたい。

今後、出前授業は実際の資料(モノ)に触れるような出前キットを作ること考えている。

館外での講演・講座は年間30回程度行っているが、実績数をご指摘いただいたとおり今後は資料に記載していきたい。

(津野 委員)

小学校の社会科見学は4月の時点で予算・見学予定を組まなければならないため、遅くとも4月初めにはチラシがほしい。小学校側としては、自由に授業設定できるのは出前授業のため、出前授業の今のお話しをぜひ進めて行ってほしい。夏休みには社会科の教員の集まりがあり、宣伝に協力できるので、事前に情報をいただきたい。

---

(橋本 委員)

p.8 旧小澤家住宅の企画展「東日本大震災と海のゴミ」展、p.21 企画展「みんなの問題・海のごみ」展については啓発活動かと思うが、ゆいぽーと新潟ではアーティストが宿泊しながら作品を製作するという事業があり、市民の方から海の漂着物を集めて来てもらい、それを使った作品を展示した。旧小澤家住宅の空間でもアーティストの海の漂着物の作品を展示できたら、より身近な問題として市民に感じてもらえるきっかけになるのではないかな。

(阿部 館長)

今回の企画展は身近な問題の啓発活動であり、芸術作品の展示ではないが、今後検討していきたい。

---

(本井 副会長)

p.19 企画展「生誕 320 年 五十嵐浚明」展が開催されるが、市内外でも作品を持っている方がたくさんいる。それにも関わらず五十嵐浚明がクローズアップされた大規模な企画展は今までなかった。この企画展を開催することによって、県内外からの反響、五十嵐浚明から教えてもらった人や関わりのある人の発掘も期待できる。個人レベルでは調査をさらに掘り下げたり、まとめたりすることも難しいことが組織的に行うとそれができるので、情報源となるような企画展を今後も実施してほしいし、調査についても協力する。

---

(本井 副会長)

p.17 博物館の企画展「いっぴん」展についても良いと思うが、開催館が積極性をもたないと来られた方も親しみがわかないと思うので、学芸員の誰がどうしているのか自主的に発信して行ってほしい。

(渋川 委員)

本井副会長と同意見になるが、学芸員の人間としての顔がもう少し前に出た企画展を開催してほしいと前々から思っていたが、次年度企画展「いっぴん」展は、積極的に学芸員を露出して行ってほしい。

(小林 副館長)

当初、今回の「いっぴん」展は、展示室に各学芸員のブースを設けて資料を展示したかったが、そこまではできないという意見が出たため、図録の解説文には各学芸員の名前を入れて、前に出すことにした。

(橋本 委員)

先日千葉県立中央博物館に行ったところ、展示に学芸員の顔写真があり、それぞれの簡単なプロフィールがパネルに書かれていたが、みなとぴあもそういうパネルがあってもいいのでは。

---

(渋川 委員)

p.3 と p.19 の自主事業である史楽講座の参加費は指定管理事業に比べ、高く

なっているが、料金設定を変更したことによって参加者数や客層に変化はあったか。

(小林 副館長)

歴史発見プロジェクトの他の事業費(企画展・こども歴史クラブ)に回すという目的があったため、参加費を高くしているが、歴史好きな市民の方を対象にしているため人数や客層に大きな変化はない。

(渋川 委員)

みなとぴあの講座に関わらず、講演・講座の参加費は一般的に見ても安く設定しすぎだと思う。1回500円の参加費は厳しいと思うが、300円程度であれば、若干であるが収益が出ると思う。みなとぴあの講演・講座関係の内容は価値のあるものだと思うし、もう少し値上げしてもいいのでは。また、来館者数の中に講演も人数をカウントし、評価してもらってもいいのでは。

(橋本 委員)

p.21～22 旧小澤家の来年度企画展について、端午の節句、和時計、羽子板等和風のもので企画展が占められているが、数年前に新潟大学の旭町展示館と旧齋藤家別邸、砂丘館、北方博物館等と連携し、スウェーデンの現代アートの作家を招いて作品の展示をした。この展示は来館者数が多かったが、和風の空間で北欧の現代アートの作品を展示したのは新鮮だったと好評だった。現在の旧小澤家住宅の展示方法を否定しているのではないが、今までにはない取り組みを取り入れ、新しい客層を広げるのもいいのでは。

(阿部 館長)

展示の構成は当館の学芸員が行っているが、情報を色々持っていると思うので、今後、新たな展示手法について検討したい。

#### 《その他》

(本井 副会長)

今年3月で新潟三越が閉店になるが、三越のライオンをもらってきてほしい。

(小林 副館長)

市民の方からもそういう要望が時々あるが、実際なかなか難しい。

以上